

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和7年9月定例会	
議案番号 議案名	議案第17号令和7年度松戸市病院事業会計補正予算(第1回)
議員名・会派名等	日本共産党 山口正子
賛否態度	賛成
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>私たち日本共産党は、本会議および委員会での討論という本来の発言を最大限に活かすことこそが議員の責務と考えます。</p> <p>非公式の場に、議会で発言もしていない意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるという考えから、以下、本会議や委員会などの公の場で討論した内容を掲載します。</p> <p>2025年9月5日 本会議 討論</p> <p>日本共産党の山口正子です。先ほど健康福祉常任委員長より後報告のありました、議案第17号松戸市病院事業会計補正予算(第1回)につきまして、会派を代表して賛成討論を致します。</p> <p>この議案は市立総合医療センターの経営改善のために立ち上げたプロジェクトチームを外部専門人材により支援するため、経営分析や財務・会計・医療現場への伴走支援をコンサルタントに委託するための費用を計上するものです。</p> <p>市立総合医療センターは、東葛北部医療圏で政策医療を担う公立病院として、唯一無二の役割を果たしています。政策医療を民間病院が担うことは多くの制約が障壁となり困難な状況です。</p> <p>そもそも医療法人は民間病院であっても「非営利法人」であり、民間企業とは違いいわゆる「儲け主義」は認められません。</p> <p>また、診療報酬は国が一律に決定するため、物価や人件費が上がっても価格転嫁できず、効率化や経費節減にもおのずと限界があります。特に小児科・救急・周産期医療などの政策医療は採算が合いづらくハイリスクな上、診療報酬が低く設定されているなど、民間病院経営の視点から「敬遠」されるのは無理のないことです。</p> <p>その役割を担う、本市・総合医療センターは言わば医療の「最後の</p>

砦」です。確かに経営改善は間違いなく必要な水準となっております。ただ経営改善の結果、その役割が失われることがあっては本末転倒です。

委員会審査ではプロポーザルの条件に「政策医療の維持を前提にした経営改善とすべき」と求め、その方向で答弁されたことから賛成いたします。

昨今、病院経営をめぐる問題が随所でクローズアップされています。老舗の民間病院ですら経営難による閉鎖が相次いでいます。まして2024年度には赤字の公立病院が9割といわれています。これは各病院の放漫経営や努力不足を超えた「国の医療政策」そのものに大きな問題があるといわざるを得ず、それを一公立病院の責任に矮小化する国の責任放棄に断固抗議するとともに、党として国・県に向けても引き続き声を上げて参ります。

以上、市民のいのちの「最後の砦」である公的医療の存続・拡充に向け、また今回の提案が総合医療センターの経営改善に資する事業となることを期待しまして賛成と致します。